



# 木童通信 vol.24

平成21年12月発行

木童 東京ショールーム

open 月～金 10:00-18:00 土 11:00-17:00  
close 日・祝 (事前予約いただければ日祝の見学も可能です)

東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティ1F

TEL:03-5368-6125 FAX:03-5368-6126

URL:http://www.kodoh.co.jp E-mail:Tokyo@kodoh.co.jp

## ★木の素朴な疑問、それ本当？



初期成長が早く、60年生で直径50cm程にもなる

Q. 寒冷地の木は木目が詰まっていて強い？

確かに同じ太さの木なら木目の詰んでいる木は目粗の木より強いという傾向はありますが、木目の詰み具合は寒い場所というよりも、「込み合っていて太る余地がない」という根柢の方がより強い要因になります。しかし、込み合った場所では光合成も満足に出来ないため、栄養不足で太ることができず、木目の詰まった木には育ちますが、決して強くはありません。

A. 言えることは**細い木(材)より太い木(材)の方が強い**と言う事です。

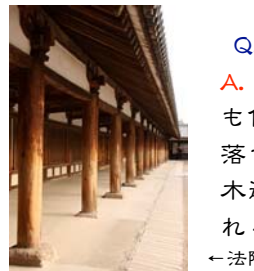


杉の乾燥材の土台と持ち手の赤身勝ちの材

Q. 土台はヒバか桧に限る！

もちろんクリ材も土台に適しています。他の木はどうでしょう？九州や沖縄では、普通に杉が土台として活用されています。特にヤマトシロアリやイエシロアリの脅威に対して杉の有効成分が南九州の杉には秋田杉の5倍ほど入っている為、抵抗力が有るからだと考えられます。また、杉はメリ込み強度が不安と言われますが、含水率20%以上、120mm角材の乾燥材では、1tの加重に対して0.2～0.3mm程度のメリ込みしか認められないという長期間での試験結果があります。

A. “土台にはヒバや桧や杉の**乾燥材**が適している”と言えます。



←法隆寺(約1300年前の建築)

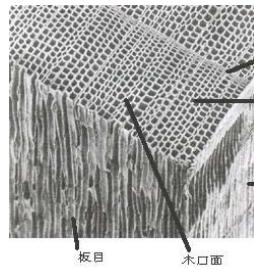
Q. 木は生きてきた年数は保つ？

A. 正しいですが、正確に言うともっと保ちます。60年生や80年生の木は100年でも200年でも保つことが出来ます。乾燥していくほど強度が増していきます。そしてある時期から緩やかに強度は落ちていき、新材の強度まで落ちるには個体差もありますが1000年とも言われています。木造住宅は弱いというイメージがありますが、適材適所に木材を使った家なら子々孫々まで住み続けられる家が出るかもしれません。



Q. 木からカビが生えてくる？

A. 木にカビは生えますが、木の中から生えては来ません。カビなどの菌は空気中を漂い、その後定着する浮遊菌です。定着した先の環境 空気湿度(70%) 温度(20℃) 栄養(木の白太等)が有れば根を張り成長していきます。木にカビが定着して生育するのを防ぐには、**換気などをして湿度を下げる**よう調節するのが良い方法です。水廻りで使用する建材としては芯材(赤身)の比率が高く、辺材(白太)が薄い場合カビの温床になりにくいヒバ材が特にお勧めです。



年目(晩材) 年目(早材) 年目 板目 木口面

Q. なぜ木は塗装しないとイケないの？

木の表面は滑沢のようですが、左図のように実は穴の開いた細胞の集合体です。長く使うためにも保護してあげる必要があるため塗装をします。特に外部では紫外線による劣化から、細胞壁の収縮や破壊が起こり、雨水や微生物による劣化が起こります。それを防ぐためには昔から着色して保護する塗装がなされてきました。

A. **木材を長持ちさせるために塗装します** A. **汚れなどを防ぐために塗装します**

もし、塗装をしないとどうなるかと言うと、よく日の当たる廊下等では2～3年も経過すると水などをこぼすと大変吸い込みます。乾くのも遅く、汚れも深くまで入ってしまいます。“転ばぬ先の杖”のイメージで、塗装をすることをお勧めします。



▲着色したデッキ材(メンテナンスをしながら8年経過)

では、何処にどんなタイプの塗装をしたらよいの？それについては、使用場所、使用する木材によって変わります。ご質問いただければお答えいたします。

これですっきり、解決？！  
木に関する疑問・モヤモヤ随時受け付けております。お気軽に木童まで★

## ★家づくりの現場から ～A邸・戸田市 設計：杉浦英一建築設計事務所～



左の写真は框に**青森ひば**+棧に**南部くり**を使った大きな3枚引きのガレージ用建具です。家の顔としてのデザインのポイントでもあり、堂々とした存在感。青森ひばの柱目材だけで割るとかなり高価なものになってしまうため、減額案で南部くり材とのコンビネーションを提案しました。ちゃんと適材適所は守っています。仕上げは植物オイルで着色の塗装をしてあります。施主のAさんもとてモ気に入ってくれていました。

この家では他にキッチンやトイレのカウンター、デッキにもくりを使ってもらっています。ナラやタモとは違う木目の美しさ。床材に柔らかい杉材(相生杉220×30mm)を選ばれたので、その対比でキリッと締まったようにも見えました。



## ★家づくりの現場から ～N邸・いすみ市のその後～

究極のローコストを実現した千葉県いすみ市のN邸。木童通信やHPでも何度か紹介しました。その後、竣工から半年経って家の東側にくりでデッキを作り、また一段とグレードアップ。



このデッキ、変わった配色の塗装をしている理由は...? 実は施主さんのご協力で新製品の塗料の耐候性(撥水性)の試験をさせていただいているのです。外部では絶対的に強いくり材ですが、欠点として濃い茶色の液(タンニン)が雨と共に流れ出て見た目に汚れてしまいます。それを防ぐために今まで色々な塗料を試したのですが、雨により塗装が固着せずに流れるため悩んでいました。そこで考えたのが、**水を弾くことによって溶出を防ぐ**こと。今回は施主の希望もあり透明(クリアー)をメインで塗装しました。デッキの劣化速度は縦壁面の数倍の速さで進行するため、写真でもクリアー部分は変色が進んでいます。

表面では目立つようなシミは認められませんでした。東柱の下からはタンニンが流れ出ていました。(柱の木口には塗装していませんでした。)汚くならず劣化してくれるかどうか、またその後の経過も報告を致します。

## ★天板入荷のご案内

スタッフが自信を持ってご紹介する天板がショールームに入ってきました！



【樹種】カツラ  
【サイズ】1790×約800×34mm  
【価格】¥178,500-  
【特長】元々1枚の板を2枚に割ってから再度ハギ合わせしているので、自然な木目で1枚板に見えます。



【樹種】キハダ  
【サイズ】1790×630×45mm  
【価格】¥168,000-  
【特長】真ん中あたりの流れた木目のところが、オイル塗装した時に良い味をだしてくれそう。



【樹種】タモ  
【サイズ】1930×710×43mm  
【価格】¥165,000-  
【特長】中壺通りのきれいな板で適度な耳の具合も優しい印象。2つの穴がチャームポイント。



【樹種】トチ  
【サイズ】1820×820×45mm  
【価格】¥325,500-  
【特長】トチならではの美しい“壺”が浮き出て、白さが際立つ。大きさも手頃で使いやすい。

すべて違う樹種で揃えています。天板はどれも“木のプロ”の視点で選んだ質の高いチョイス。それぞれの木の長所を見比べ、一枚一枚の個性を感じて下さい。(※詳細は木童HPでもご覧いただけます。)

木童 NEWS ラインナップ

■ 12/29(火)～平成22年1/5(水)まで木童東京ショールームはお休みをいただきます。

※期間中のご予約はお受けできませんのでご了承下さい。1/6(水)より通常営業致します。

### 企画展のご案内

■ 第73回企画展 12/7(月)～25(金)「Made in Heisei 社員職人の家づくり 平成建設」展 平成建設

■ 第74回企画展 平成21年1/12(月)～30(土)「檜風呂」展 ～檜の浴槽と小物の展示～

■ 木童通信をHPよりダウンロードできるようになりました。バックナンバーをご希望の方はこちらをご利用下さい。